



バネントコンテストで優秀賞に輝いた(左から)阿部さん、鎌田さん、田中さん、高橋さん

23年度 特許庁コンテスト

全国の高校生や学生を対象とした2023年度の「バネント(特許)コンテスト」で、秋田市の秋田工業高校の生徒4人が考案した書見台(ブックスタンド)が優秀賞に選ばれた。視覚障害者が使いやすいように工夫を凝らした点などが評価された。

秋田工業高 メカクラブ4人考案

多機能書見台 優秀賞

視覚障害者が使いやすい

4人はメカクラブの鎌田^{ひな}陽里さん(3年)、阿部^{あべ}成翔さん(同)、高橋^{たかはし}真穂さん(2年)、田中^{たなか}夢さん(同)。県立視覚支援学校(同市)から書見台の製作依頼があったことから、出品作品の題材に決めた。支援学校側からは事前に、弱視の生徒らが読書したり、授業を受けた際に書見台を使うことを聞いた。既存の書見台は背景色が黒のため、色彩のコントラストの関係上、資料によっては見えにくい場合があるといった説明も受けてから製作に着手した。

4人が意識したのは使いやすい。天板の角度を15段階で調節できるようにした。また、天板をスライド式にし、薄型のホワイトボードや黒色のマグネット板のほか、赤、青、黄色の板を用意。資料に応じて見やすい背景色に切り替えられるようにした。下部には収納用の引き出しも設けた。

今春卒業した鎌田さんと阿部さんは1年時に上級生と共同製作した作品が特別賞を受賞しており、今回が2度目の入賞。まとめ役だった鎌田さんは埼玉東選はれ、特許の出願支援を受ける資格を得た。

4人が考案した書見台は現在、特許を出願中。夏ごろにも結果が出る見込みだ。現在もまだ調整を重ねており、メーク用の鏡や調理時のまな板としても使用できないか検討している。

最上級生となる田中さんと高橋さんは今回の経験を生かし、アイデアでより多くの困っている人を助けたい」と話した。(島田実倫)



考案した書見台。天板がスライド式で変えられるようになっている